

「奥能登国際芸術祭2020+」



珠洲市長
泉谷 満寿裕

東京奥能登応援団の皆様には、日頃から様々な面でご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響により、1年延期することを余儀なくされましたが、本年9月4日から10月24日にかけて「奥能登国際芸術祭2020+」を開催することとしています。新型コロナウイルスによって分断された国と国や、人と人を再びつなぎ直す機会になればと願い、準備を進めてきました。

2017年の秋に初めて開催した奥能登国際芸術祭では、アーティストの皆様が、市内それぞれの地域の歴史や特徴、魅力、豊かさを表現していただき、これまで、思うように伝えることができなかった珠洲市の潜在力の高さを、アートを通して、遠く広く伝えることができました。おかげさまで、徐々にではありますが、珠洲市に移住してこられる方も増えてきました。昨年度、本市の移住支援窓口である「すず里山海移住フロント」を通して移住された方は51名となり、



年齢構成においても30歳代以下の移住者が8割を占めました。今年度も、これま

で16名の方が移住され、さらに、7月中には約15名の方が移住される予定となっております。また、6月1日には、東証一部上場企業の「アステナホールディングス株式会社」が、本社機能の一部を珠洲市に移転されました。岩城代表取締役社長は、花王株式会社や、株式会社北國銀行など、上場企業6社を交え、「学校法人 先端教育機構 事業構想大学院大学」と連携し、「能登SDGs新事業プロジェクト研究」の取り組みを始めており、今後、SDGsの取り組みを通して、新たなビジネスをこの珠洲市で数多く立ち上げたいとのことであり、まさに珠洲市の未来に光が差し込んできたと感じています。なお、こうしたサテライトオフィスの誘致やさらなる移住定住の促進に向けて、能越ケーブルネットと連携して光ファイバの整備を市内全域で進めており、来年2月には完了する見込みとなっております。

第2回目となる今回の芸術祭は、前回を上回る内容となるよう、取り組んでまいりました。アートには力があります。人の心を動かす力。地域を変える力。そして、つなぐ力。コロナ禍によって失われつつある大切なことをアートは甦らせてくれるのではないのでしょうか。

東京奥能登応援団の皆様には、是非、「奥能登国際芸術祭2020+」にお越しただき、ふるさと珠洲のゆっくりと静かに流れる時間の中で、アートの力を感じていただきたいと思います。

「こらむ」 アイデンティティ 50

― 郷里の先達に学ぶ 2 ―

仏教哲学者 鈴木大拙博士

日久之好日

この「こらむ」で取り上げた西田幾多郎博士をお読みくださった方から、されば今一人書くべきでしょうと所望されたのは西田の生涯の学友鈴木大拙である。

西田は、大拙著「文化と宗教」の序で「大拙君は高い山が雲の上へ頭を出しているような人である」と譬え、考えるその底には「深い人間愛の涙を湛えている」と述べている。多くの著作や講義、講演などで禅や東洋思想を海外に紹介した世界的な仏教哲学者である。私には、信仰心に篤く徳行に励む無学無名の真宗門徒「妙好人」に着目した代表的な著作『日本的靈性』が深く心に刻まれている。

此のとういか彼のとういか大拙博士が旧制第四高等学校を中退後、一八八九年(明治22年)年齢19歳に現在の珠洲市立飯田小学校の教師を体験されている。このことに関連する資料は蛸島小学校にも保存されている。珠洲教育の風を端緒に東京大学哲学科で学びまた鎌倉の円覚寺へ参禅し、そして大谷大学を基点に世界に広く羽ばたかれた。九〇歳まで講義をし、他大学の教授が大勢聴講に来て学生が隅っこで小さく聞いたという伝説もある。

ところで、大拙博士の主張したいのは何か。主著『禅の思想』三三四ページに本書即ち『禅の思想』を読んでくれたまえ」と提示される。その序冒頭「禅は行為である、生活である、日日の経験そのものである、…」と、次第に論理と具体が絡み合せて面白いが馴染み難い人もあろう。助け舟は、大拙を知り学び考える鈴木大拙館(〒920-0964 金沢市本多町三二四二〇 電話〇七六二二二八〇一一)である、私も訪ねたいと思う。

(押上武文(府中市) 宝立町出身)

特別寄稿 北海道 女人禁制の島

元飯田高校同窓会東京支部長
表 久雄さん

「さくらの開花の便り」を聞くころになると
—さんのことを思い出す。桜のことに自信を
持てていつ、

「桜守の佐藤藤右衛門の次が俺だ」
と、豪語していた。

「日本の桜はよいが」
と聞く

「つまり、『吉野』でしょう。日本人に昔から
愛されてきたのですから。全部、山桜ですが、
六万本もあるのです・・・。」という。そして、

「北海道口高地方、静内の二〇間道路の『蝦
夷彼岸桜』がいいねえ。五月連休明け、本州の
桜が終わったころに咲きます・・・。」

といて、平成二年(一九九九年)五月六日
に連れて行ってくれた。

この花は、やや小ぶりで濃いピンク。花と
花の間に濃い紫がかかった新葉の芽みたいなの
が混ざっていて、落ち着いた雰囲気を香ら
せ、気品を感じさせる。この日高の土地を開
墾して牧場を開き、道路をつけ、この桜を植え
た開拓時代の先人たちの辛さに思いをはせ
た。

翌日、レンタカーで登別温泉からオロフレ
峠を越え、倶知安、余市を経由して小樽まで
ドライブした。昼過ぎになって日本海が見え
てきた。車を運転していた—さんは、

「ここがオシヨロ海岸です」
と云う。

「ええ？オシヨロ？」

一九八〇年代だった。郷里の先輩のSさんが北

海道から都内の江戸川区小岩に来て「忍路」
という看板の居酒屋をやっていて、郷里の皆
さんが集まる東京珠洲会の懇親会を、よくそ
こで開いた。その折、「忍路」を「オシヨロ」と読
むことを知った。

車は国道五〇号線を左に折れて急坂を上
り、赤い岩の崖の上の岬に出た。高台に二〇
メートルを超えそうな石碑が、海から吹き上
げる寒風にさらされて直立している。正面に
大きな草書体の文字が刻んである。

「忍路、高嶋およびでないが、せめて歌棄、
磯合まで、昭和一八年六月」と読める。これは
江差追分の一節だ。

「この岬は高嶋岬だ」
と直観した。

忍路、高嶋までとはいわないが、せめて歌棄
か磯合までへ連れて行ってほしい・・・という
女の願いが込められているのだ。

歌棄村、磯合村は、江差と小樽のほぼ中間
点にあり、昭和二〇年に合併して寿都町に
なった。忍路、高嶋は、小樽市になっている。

そつだ、北海道は安政三年(一八五六年)ま
で、女人禁制の島だったのだ。

最近、東京五輪・パラリンピック大会組織
委員会の森喜朗会長が女子への差別発言をし
たとして会長の椅子を奪われたが、ここにも
男女差別の歴史のひとつがあるのだ。

(弁護士・我孫子市へ能登町松波出身)

●小樽市には能登からの移住者が多数定住しており、
平成10年4月珠洲市と友好都市協定を提携している。



石川県人会 会員募集!

■主な事業

郷土石川県出身又はゆかりの方の集う会です。
思わぬ人との出会い、懐かしいなまり言葉に味わ
いつつ、相互の親睦と郷土愛の高揚、そして地元
との交流。

【お申込み(お問合せ)先】

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館 14 階(石川県東京事務所内)
TEL 03-3556-1414 FAX 03-3556-8113
URL <http://www.isikawa-kenjin.com>
e-mail jimu@isikawa-kenjin.com

石川県人会連合会全国大会

10/3日

式典：輪島市文化会館
懇親会：サン・アリーナ

5年に1度の全国大会、全国各地の会員らが集い海外から
の参加も。石川ゆかりの方の個人参加や地元からの参加
も大歓迎のイベントです!!



2016(平成28)年9月 金沢大会

「奥能登国際芸術祭2020+」のイチオン作品

東京奥能登応援団の皆様、いつも珠洲市を応援いただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、1年延期となりました奥能登国際芸術祭。1年間の準備期間を最大限に活かし、コロナ対策の徹底はもとより作品の魅力もアップしております。

9月4日(土)から開催する「奥能登国際芸術祭2020+」。前回の芸術祭で一番人気だった「時を運ぶ船／塩田千春」をはじめとした2017常設作品も加え、16の国と地域から53組のアーティストによる46作品を公開する予定です。

数ある作品の中から、ぜひ足を運んでいただきたいイチオン作品をご紹介します。

■スズ・シアター・ミュージアム

毎年5月の連休に、鯉のぼり約450本が泳ぐ大谷川の傍にある坂道を登ると、海を見渡せる旧西部小学校校跡地があります。体育館だけ残されたこの場所に、劇場型民俗博物館「スズ・シアター・ミュージアム」が誕生します。

「スズ・シアター・ミュージアム」に展示されるのは、「珠洲の大蔵ざらえプロジェクト」と銘打って市内の蔵や納屋から運び出した農具や漁具、祭礼道具や生活用品など歴史が詰まった地域の宝と思いの出の数々。

市民の皆様へお声掛けしたところ、約1,600点もの民具を寄贈いただきました。寄贈いただいた民具は、国立歴史民俗博物館の

ご指導の下、一点一点整理・分類し、モノにまつわるエピソードを添えてデータ化しました。

これらの民具の一部を展示し、音と光と映像を使ったアートの手法でモノや思い出が動きだす世界初の劇場型民俗博物館として公開されます。

「あゝ、懐かしい」「家にもあった!!」など民具1点ごとに目が留まり、これらが動き出すときと目が離せなくなることでしょう。

■校歌復活プロジェクト

この他に、「大蔵ざらえプロジェクト」の一環として「校歌復活プロジェクト」に取り組んでいます。「校歌復活プロジェクト」は、これまでの統廃合により消滅しつつある市内の小・中学校の校歌を卒業生で復活させ、懐かしの映像とともにお披露目しようという企画です。

校歌を通じて、地域の様々な年代の方が集まり、思い出を語りながら楽しく歌うことで更に絆が深まることと思います。

ご来場いただいた皆様も、出身校の校歌が流れると、思わず口ずさんでしまうのではないのでしょうか。

ぜひ、お友達や家族と一緒にスズ・シアター・ミュージアムを訪れ、懐

かしいあの頃に想いを馳せてみませんか。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。



- ①②市内の蔵や納屋から民具を運び出すサポーター
- ③寄贈いただいた民具の数々
- ④スズ・シアター・ミュージアムのイメージ



【お問い合わせ】奥能登国際芸術祭実行委員会
TEL:0768-82-7720 E-mail:info@oku-noto.jp

＝メッセージ＝

照ノ富士の横綱昇進に期待の一言

大関照ノ富士横綱へ

6月21日大相撲名古屋場所の新番付が発表されました。先場所幕内優勝をした大関照ノ富士は東大関へ。今場所優勝すれば横綱昇進、また三場所連続優勝での横綱昇進となれば双葉山以来84年ぶりの快挙となります。

先月、五月場所優勝額の写真撮影に同行致しました。久しぶりの再会でしたので話も弾みました。元付け人として一番気になるのはやはり身体の状態。

先場所後半にはドクターストップがかかるほどまで悪化していた膝。医師からは手術を勧められるが手術をしても完治は難しいとのこと。

照ノ富士本人は「現役を長くできるわけではないと思っているので一日一日やれることを精一杯頑張ります。名古屋場所千秋楽を笑って迎えられたら良いですね」と話していました。毎日を全力で必死に取り組む照ノ富士の名古屋場所が楽しみです。

名古屋場所初日は7月4日から始まります。照ノ富士関の応援よろしく願い致します。

【小紙からのコメント】

日本の国技・相撲のPRと共にふるさと・奥能登の観光PRにも一役をと、自身の「新しい土俵」に抱負を語っています。相撲界同様に“奥能登魂”を発揮していただければ幸いです。

～頑張る奥能登人～



元大相撲力士
中板秀一さん
(品川区飯田町出身)

◆経歴

昭和56(1981)年 飯田町で生まれる
平成12(2000)年 飯田高校卒業
平成16(2004)年 杏林大学外国語学部中国語学科卒、
間垣部屋入門、四股名・駿馬赤兎
初場所 2004年 3月場所(途中で伊勢が濱部屋に移籍)
引退
令和元(2019)年 5月場所・最高位 東幕下22枚目
同門の照ノ富士が関取に昇進後、付け人として大関(当時)の参謀役。

◆現在

相撲部屋の元同僚とデイサービスの介護士、お相撲さんプロモーションズ所属
本場所中は照ノ富士の応援動画をアップロードしている。また、TV、新聞、YouTube等のメディアに多数出演



横浜石川県人会
コロナ禍でも奮闘!!

横浜石川県人会(本田ゆり子代表世話人)は、コロナ禍の中でも能登物産展を展開しています。すずなりや輪島朝市から海産物などを取り寄せて、奥能登の観光・物産などの宣伝に余念がありません。

5月は2、3日仲通りマルシェ、6月12日鶴見まんぶく広場に登場し、鶴見区に友好交流都市・輪島の存在感を示しています。

7月は青葉区たまプラーザにも進出します。皆さん、寄ってかしーね!!

7月18日(日)たまプラーザ・駅改札口広場
チャレンジフェスタ
ふるさと石川PRショップ

事務局から

自分自身のワクチン接種は7月に控えていますが、コロナ禍の収束の全容が見えてきません。小紙の7月1日発行も「奥能登国際芸術祭」開催決定を待ってのギリギリの待機でした。待望のオリ・パラもテレビ観戦で過ごし、さあ、秋の芸術祭にはこぞって応援に里帰りしましょう!!

〔東京奥能登応援団〕代表/光真 章 副代表/下平 康次

